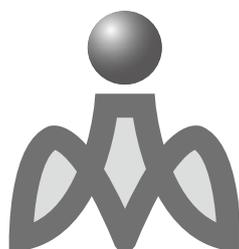


山 梨 県

商工会地区

中小企業景況調査報告書

〔平成29年1月～3月実績〕
〔平成29年4月～6月予測〕



未来に敏感、人が中心

山梨県商工会連合会

目 次

I 調査要領	1
II 景況	
1. 産業全体の業況概観	2
2. 製造業の動向	
(1) 景況概観	3
(2) 主な項目で見る業況	3
3. 建設業の動向	
(1) 景況概観	6
(2) 主な項目で見る業況	6
4. 小売業の動向	
(1) 景況概観	9
(2) 主な項目で見る業況	9
5. サービス業の動向	
(1) 景況概観	12
(2) 主な項目で見る業況	12

【I】 調 査 要 領

1. 調 査 対 象

(1) 対象地区 19商工会 (2) 対象企業数 165企業 (3) 回答企業数 165企業

2. 調査対象期間

第4四半期 平成29年1月～3月期 「調査時点：平成29年3月1日」

3. 調 査 方 法

県下の調査対象企業を19商工会の経営指導員等が訪問面接調査

4. 調査対象企業（モニター企業）の商工会別、業種内訳

商工会名	製 造 業	建 設 業	小 売 業	サービ業	計
都 留 市	3	2	3	4	12
山 梨 市	1	2	2	3	8
大 月 市	2	1	3	2	8
韭 崎 市	2	2	1	2	7
南アルプス市	3	2	4	6	15
北 杜 市	4	2	5	4	15
甲 斐 市	4	3	5	2	14
笛 吹 市	3	2	4	6	15
上 野 原 市	2	1	2	2	7
甲 州 市	3	1	2	3	9
中 央 市	2	1	2	1	6
市 川 三 郷 町	2	1	1	2	6
身 延 町	1	1	2	2	6
南 部 町	1	0	1	1	3
富 士 川 町	1	1	1	2	5
昭 和 町	1	1	3	3	8
西 桂 町	0	0	1	1	2
南 都 留 中 部	1	1	2	2	6
河 口 湖	1	1	6	5	13
計	37	25	50	53	165

5. そ の 他

①本報告書のD Iとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について前年同期と比較して、増加（上昇、好転、長期化等）とする企業割合と、逆に減少（低下、悪化、短期化等）とする企業割合の差を示すものである。

②次頁【II】1. 産業全体の業況概観については、商工会調査企業だけではなく、他の本県経済団体調査企業（卸売業を含む）を含んだ286サンプルによるものである。

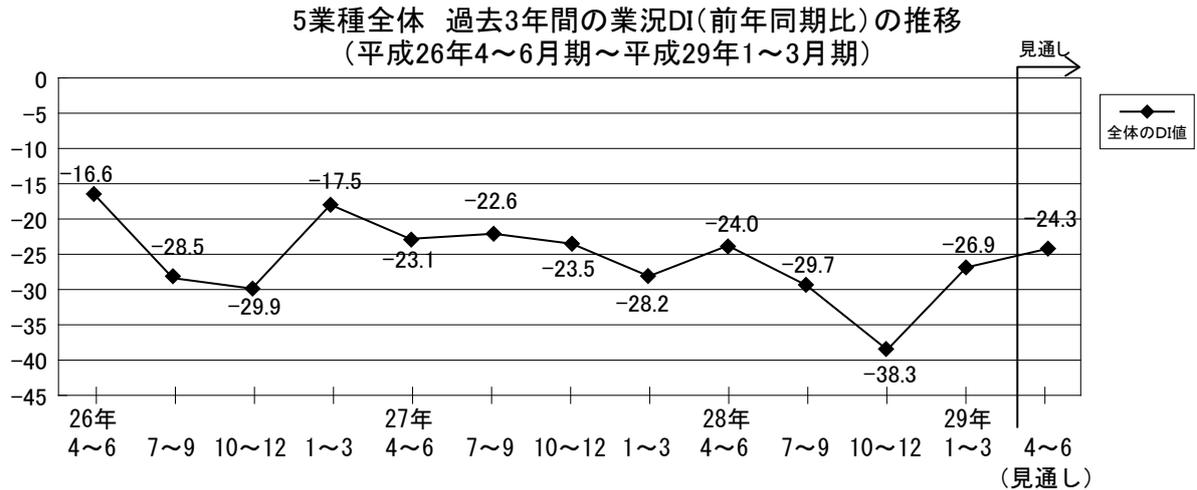
【Ⅱ】 景 況

1. 産業全体の業況概観

本県における5業種全体の業況判断DI、及び、産業別の業況判断DIについてみる。

まず、前年同期比でみた過去3年間の5業種全体の業況判断DIである。今期の業況判断DIは、▲26.9と前期比で11.4ポイント改善している。

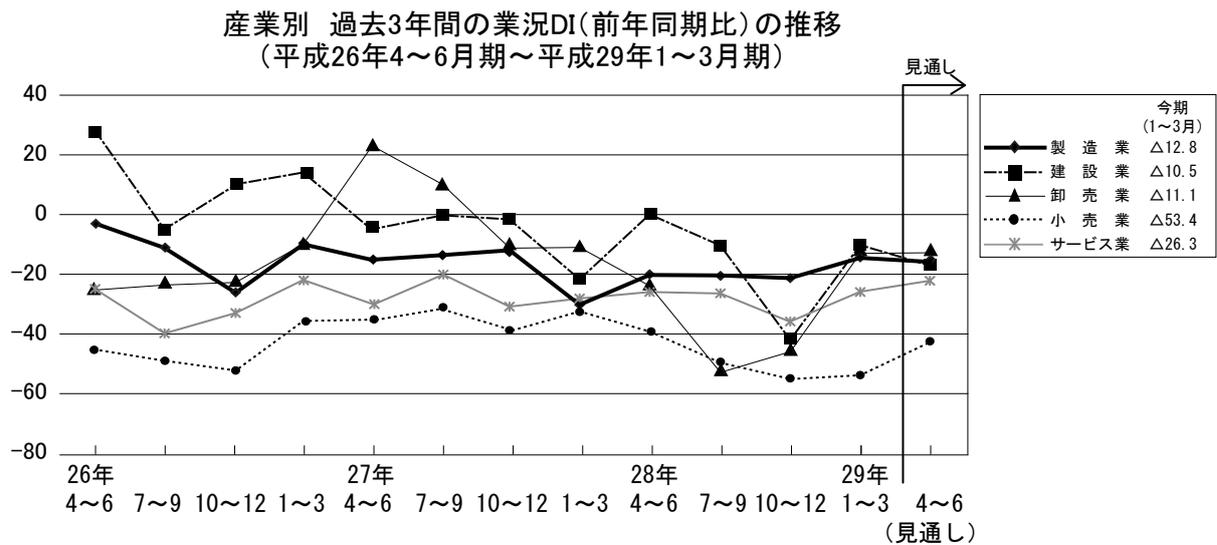
また、来期については、▲24.3と更に改善する見通しである。



次に、前年同期比でみた過去3年間の産業別の業況判断DIである。

今期は全ての産業が改善している。製造業が▲12.8と前期比で9.0ポイント、建設業が▲10.5と前期比で30.6ポイント、卸売業が▲11.1と前期比で33.3ポイント、小売業が▲53.4と前期比で1.5ポイント、サービス業が▲26.3と前期比で11.1ポイントと改善している。

来期は、小売業、サービス業が改善、卸売業が横ばい、製造業、建設業が悪化見通しである。



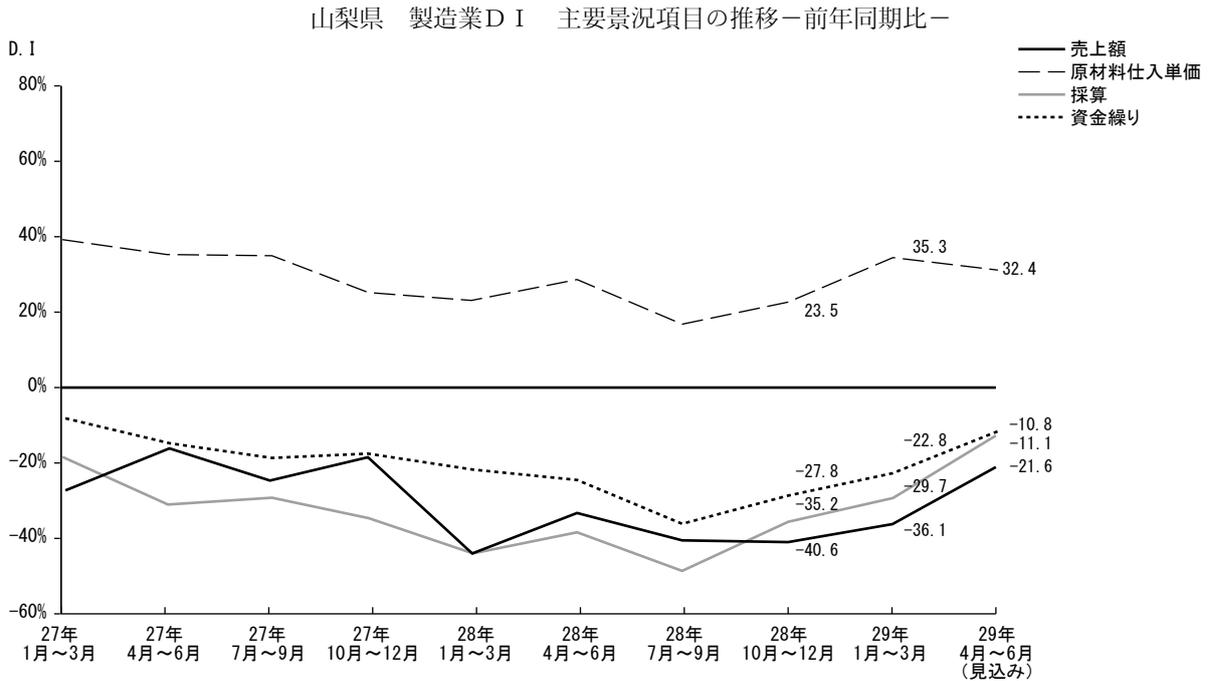
【注記】上記、産業全体の業況概観については、商工会調査対象165企業に甲府・富士吉田地域等からの121企業を含めた286サンプルを使用。卸売業については、中小企業基盤整備機構調査によるデータのみを使用。次ページからの産業別景況DIについては、商工会地区企業のサンプル分析に基づくものである。

2. 製造業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期は▲36.1と前期比で4.5ポイント改善している。来期は▲21.6と更に改善する見通しである。原料仕入単価D Iは、今期は35.3と前期比で11.8ポイント上昇（悪化）している。一方、来期は32.4と低下（改善）する見通しである。採算D Iは、今期は▲29.7と前期比で5.5ポイント改善している。来期は▲10.8と更に改善する見通しである。資金繰りD Iは、今期は▲22.8と前期比で5.0ポイント改善している。来期は▲11.1と更に改善する見通しである。

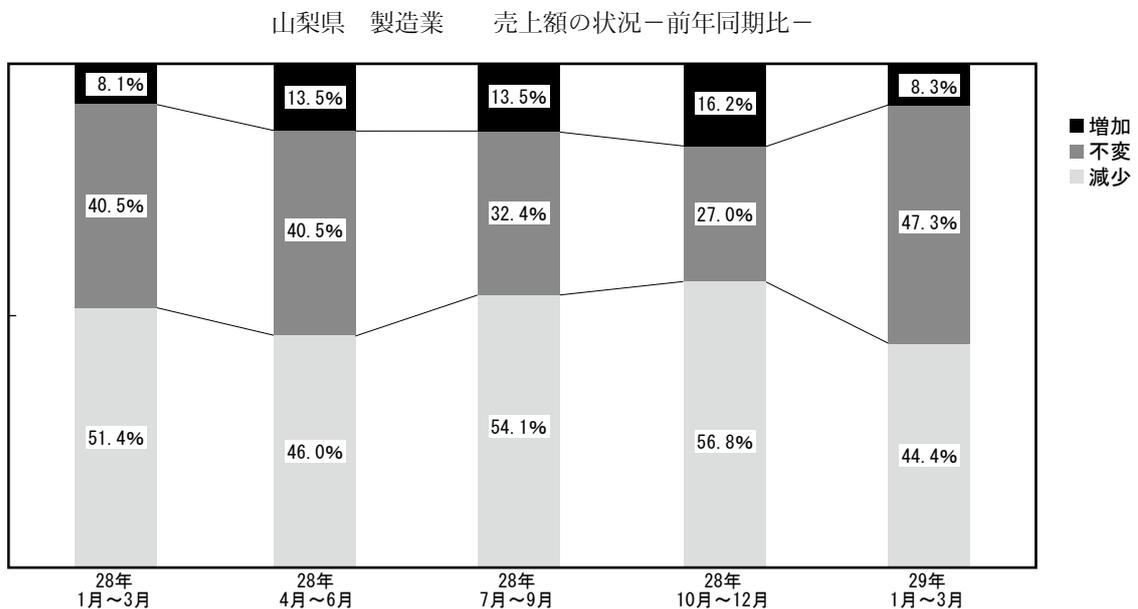
今期は、原料仕入単価D Iを除いて改善し、来期は、全てのD Iが改善する見通しである。



(2) 主な項目で見る業況

① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数36社（前期37社））

「増加」と答えた企業の割合は、8.3%（3社）と減少している（前期比▲3社）。「不変」は47.3%（17社）と増加（前期比+7社）、「減少」は44.4%（16社）と減少している（前期比▲5社）。

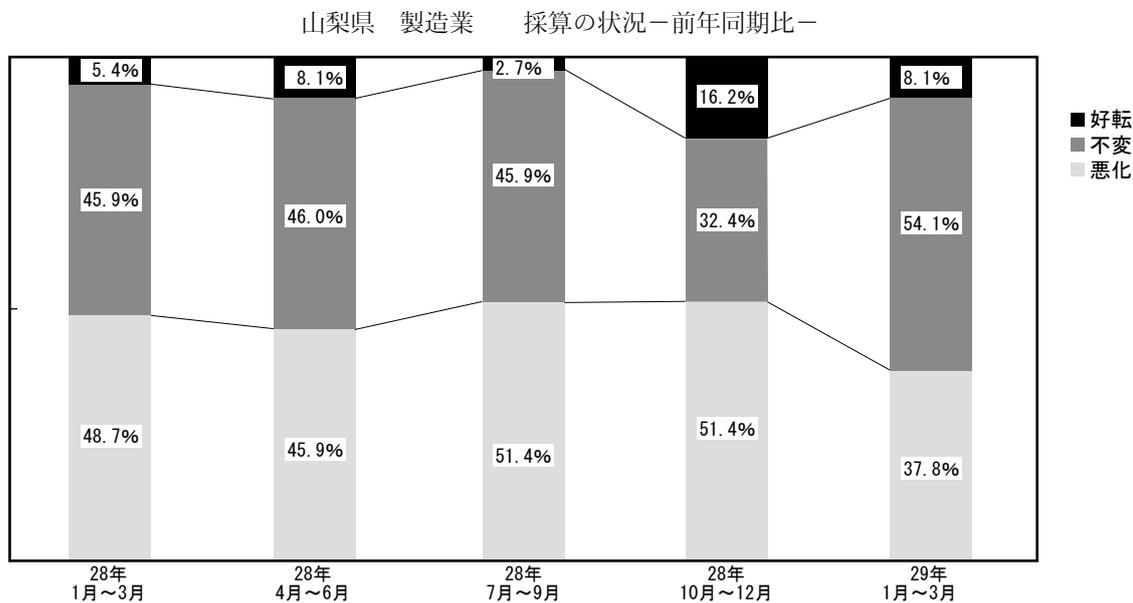


② 採 算（採算D Iの内容（回答企業数 37社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、8.1%（3社）と減少している（前期比▲3社）。

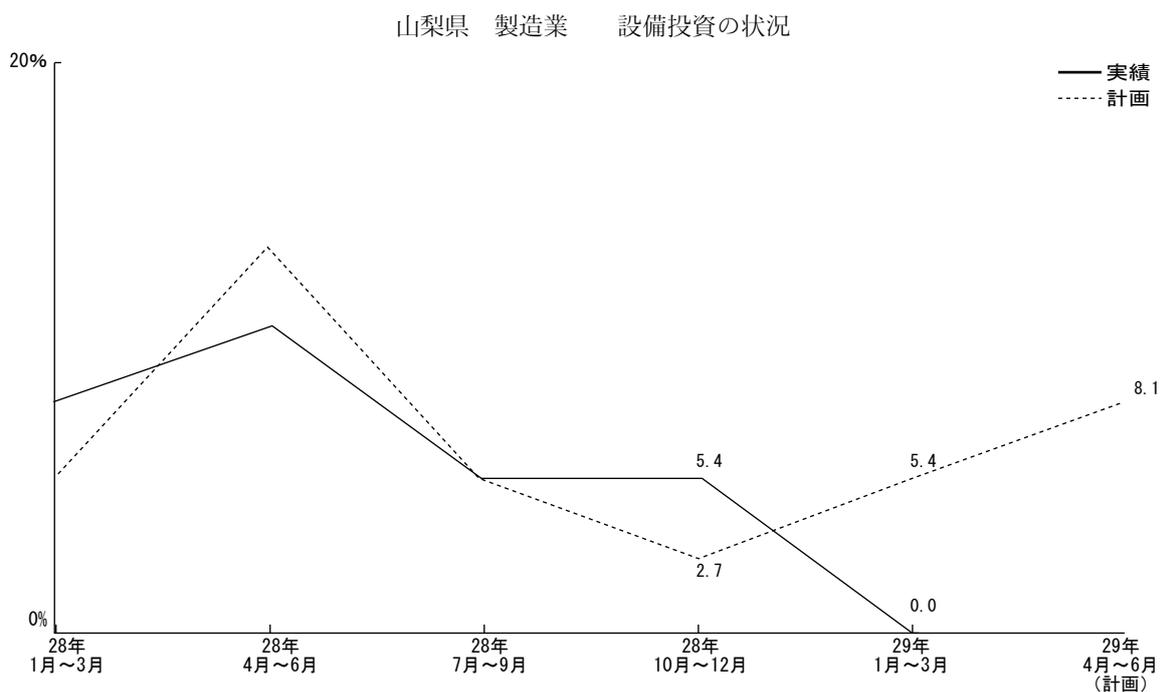
「不変」は54.1%（20社）と増加（前期比+8社）、「悪化」は37.8%（14社）と減少している（前期比▲5社）。



③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数 37社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は0.0%（0社）であった。

来期の計画については、8.1%（3社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「生産設備」が3件になる。



④ 経営上の問題点（回答企業数 34 社）

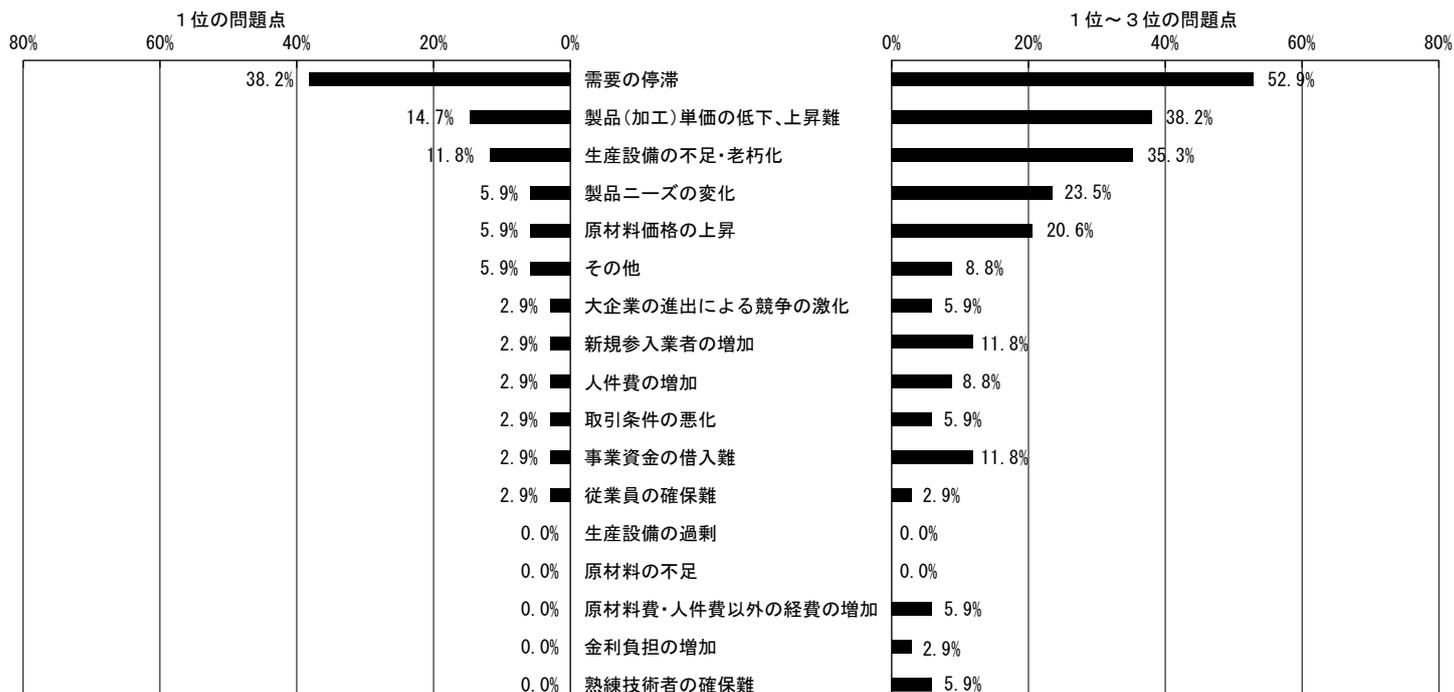
まず、経営上の問題点として、「1 位」に挙げられたものからみていく。

1 番目に多かったのは、「需要の停滞」の 38.2%（13 社）であり、2 番目は、「製品（加工）単価の低下、上昇難」の 14.7%（5 社）である。

次に、「1 位～3 位」に挙げられたものを見る。

1 番目に多かったのは、「需要の停滞」の 52.9%（18 社）であり、2 番目は、「製品（加工）単価の低下、上昇難」の 38.2%（13 社）である。

山梨県 製造業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
食料品製造業	6	16.2
飲料・飼料・たばこ製造業	1	2.7
衣服・その他繊維製品製造業	0	0.0
印刷・同関連業	3	8.1
化学工業	1	2.7
プラスチック製品製造業	4	10.8
金属製品製造業	2	5.4
一般機械器具製造業	12	32.4
電気機械器具製造業	2	5.4
輸送用機械器具製造業	1	2.7
その他製造業	5	13.5
合計	37	100.0

従業員規模別

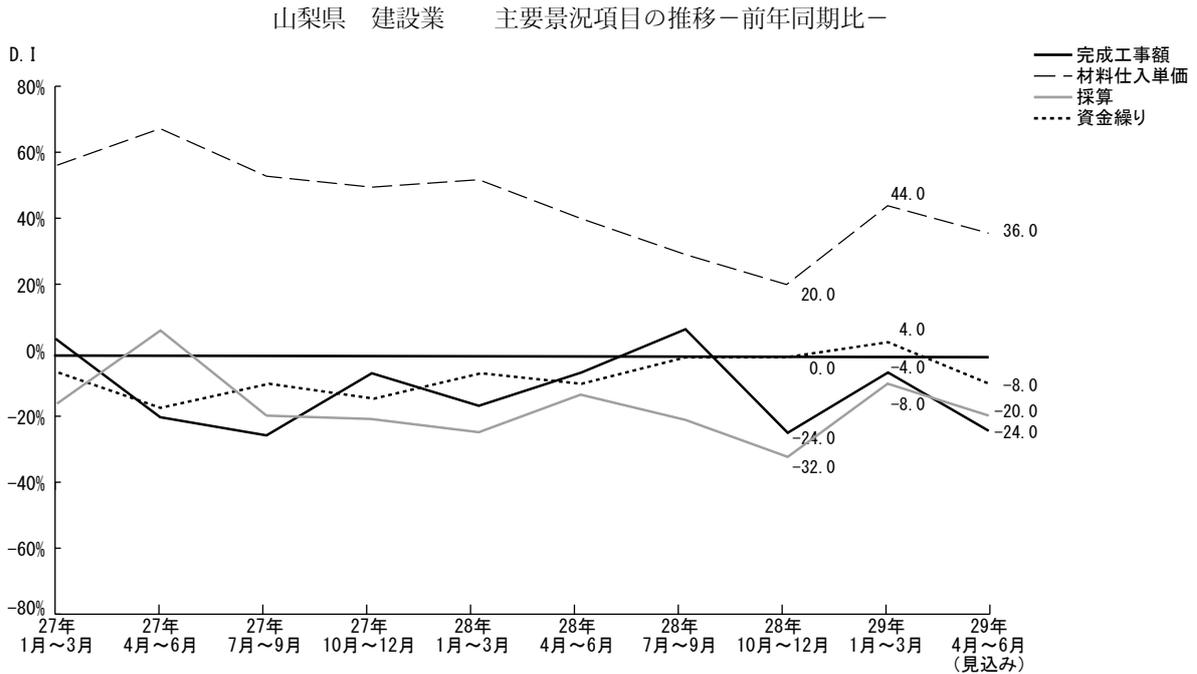
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	企業数	構成比(%)	企業数	構成比(%)
2 人以下	24	64.9	20	54.1
3 人～5 人以下	5	13.5	5	13.5
6 人～10 人以下	5	13.5	8	21.6
11 人～20 人以下	3	8.1	4	10.8
合計	37	100.0	37	100.0

3. 建設業の動向

(1) 景況概観

完成工事額D Iは、今期は▲4.0と前期比で20.0ポイント改善している。一方、来期は▲24.0と悪化する見通しである。材料仕入単価D Iは、今期は44.0と前期比24.0ポイント上昇(悪化)している。一方、来期は36.0と低下(改善)する見通しである。採算D Iは、今期は▲8.0と前期比で24.0ポイント改善している。一方、来期は▲20.0と悪化する見通しである。資金繰りD Iは、今期は4.0と4ポイント改善している。一方、来期は▲8.0と悪化する見通しである。

今期は、原料仕入単価D Iを除いて改善している。一方、来期は、原料仕入単価D Iを除いて悪化する見通しである。

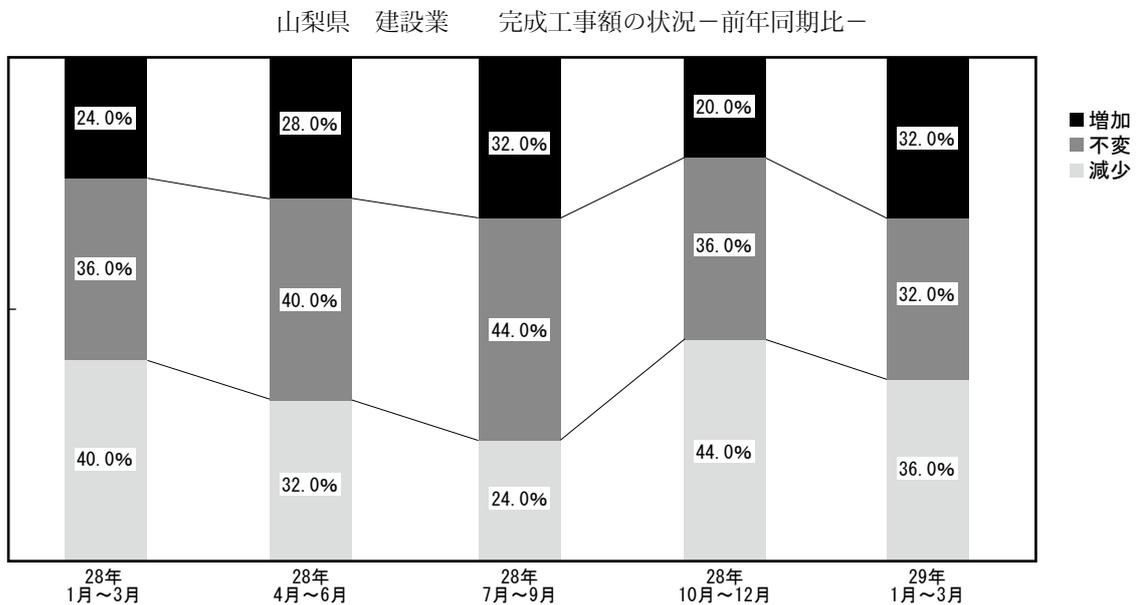


(2) 主な項目で見る業況

① 完成工事額 (完成工事額D Iの内容 (回答企業数 25社))

「増加」と答えた企業の割合は、32% (8社)と増加している (前期比+3社)。

「不変」は32.0% (8社)と減少(前期比▲1社)、「減少」は36.0% (9社)と減少している (前期比▲2社)。



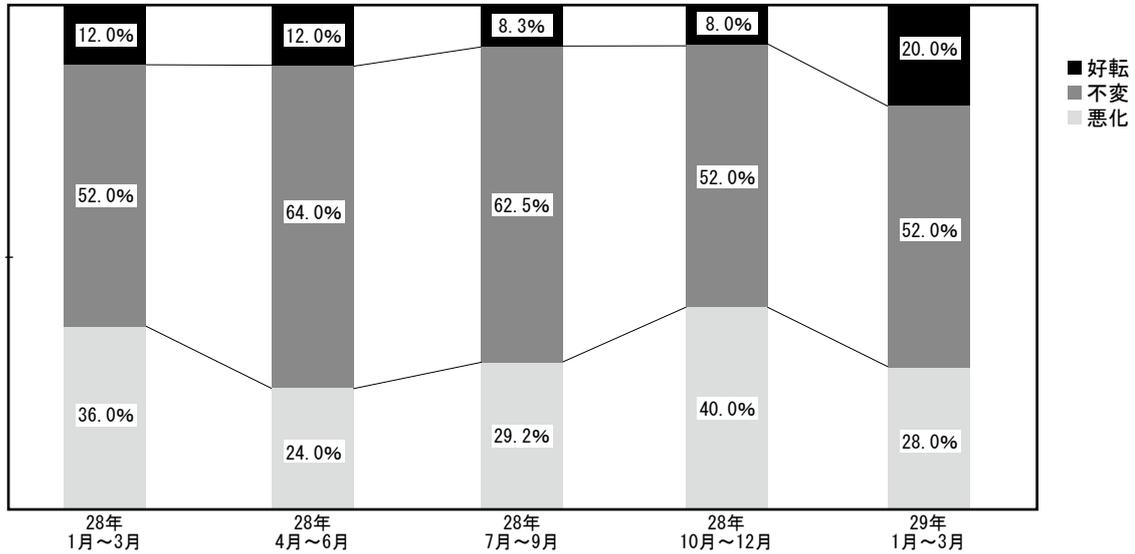
② 採算（採算D Iの内容（回答企業数 25 社）

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、20.0%（5 社）と増加している（前期比+ 3 社）。

「不変」は 52.0%（13 社）と横ばい（前期比± 0 社）、「悪化」は 28.0%（7 社）と減少している（前期比▲ 3 社）。

山梨県 建設業 採算の状況－前年同期比－



③ 設備投資（直近 1 年間における設備投資の状況（回答企業数 25 社））

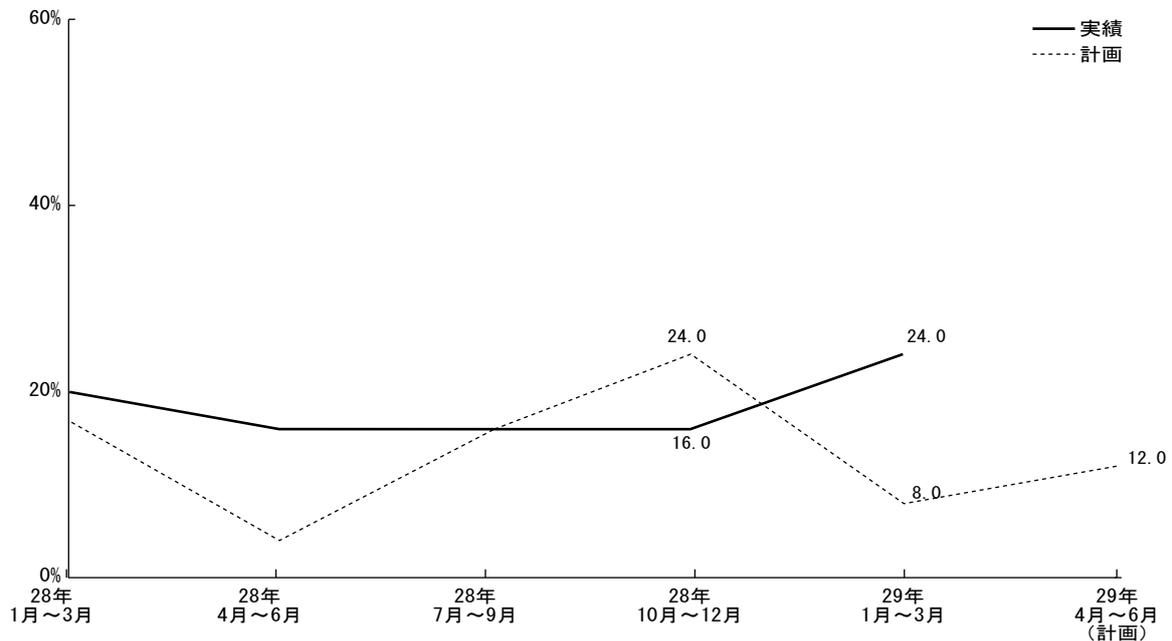
今期において、設備投資を行った企業の割合は 24.0%（6 社）であった。

その設備投資の内容は、「車両・運搬具」が 4 件、「OA 機器」が 2 件、「建設機械」が 1 件であった。

来期の計画については、12.0%（3 社）の企業が予定している。

その設備投資の内容は、「車両運搬具」が 3 件、「建設機械」が 1 件になる。

山梨県 建設業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数 23 社）

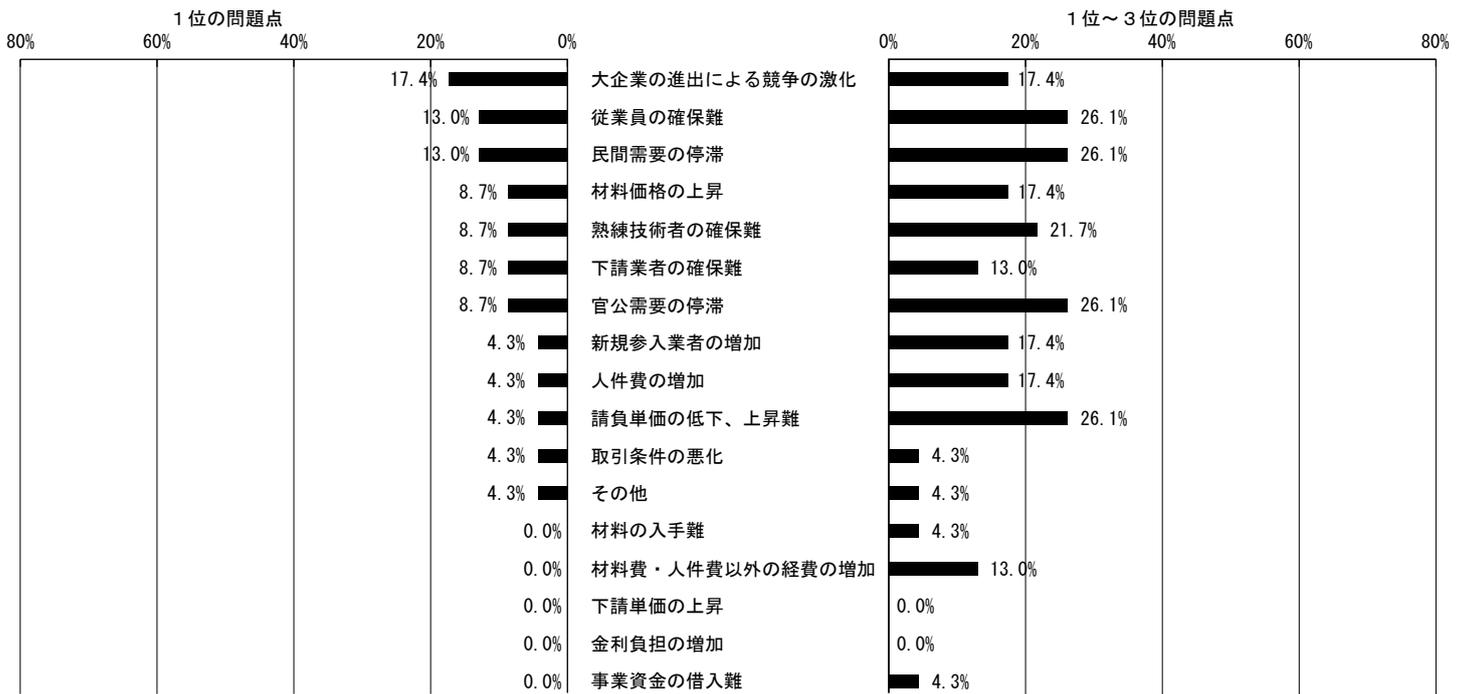
まず、経営上の問題点として、「1 位」に挙げられたものからみていく。

1 番目に多かったのは、「大企業の進出による競争の激化」の 17.4%（4 社）であり、2 番目に多かったのは、「従業員の確保難」、「民間需要の停滞」の 13.0%（3 社）である。

次に、「1 位～3 位」に挙げられたものをみる。

1 番目に多かったのは、「従業員の確保難」、「民間需要の停滞」、「官公需要の停滞」、「請負単価の低下、上昇難」の 26.1%（6 社）であり、2 番目に多かったのは、「熟練技術者の確保難」の 21.7%（5 社）である。

山梨県 建設業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
総合工事業	19	76.0
職別工事業	4	16.0
設備工事業	2	8.0
合計	25	100.0

従業員規模別

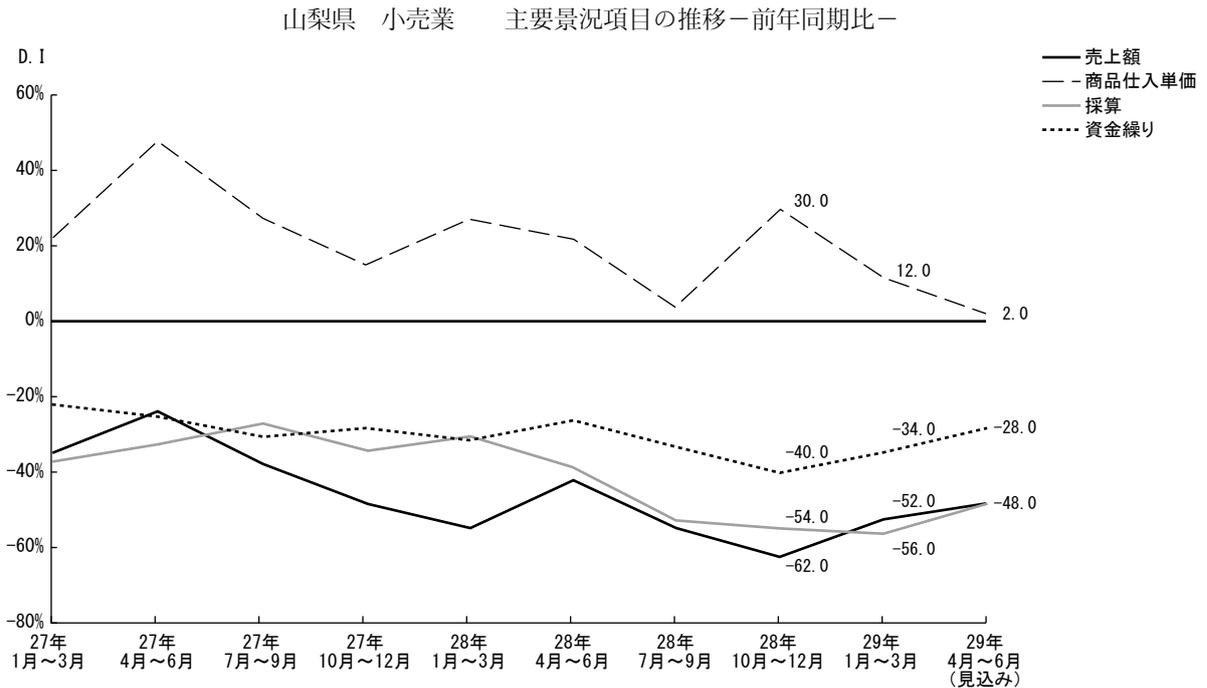
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	企業数	構成比(%)
2 人以下	9	36.0	7	28.0
3 人～5 人以下	7	28.0	8	32.0
6 人～10 人以下	4	16.0	5	20.0
11 人～20 人以下	5	20.0	5	20.0
合計	25	100.0	25	100.0

4. 小売業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期は▲52.0と前期比で10.0ポイント改善している。来期は▲48.0と更に改善する見通しである。商品仕入単価D Iは、今期は12.0と前期比で18.0ポイント低下(改善)している。来期は2.0と更に低下(改善)する見通しである。採算D Iは、今期は▲56.0と前期比で2.0ポイント悪化している。一方、来期は▲48.0と改善する見通しである。資金繰りD Iは、今期は▲34.0と前期比で6.0ポイント改善している。来期は▲28.0と更に改善する見通しである。

今期は、採算D Iを除いて改善し、来期は、全てのD Iが改善する見通しである。

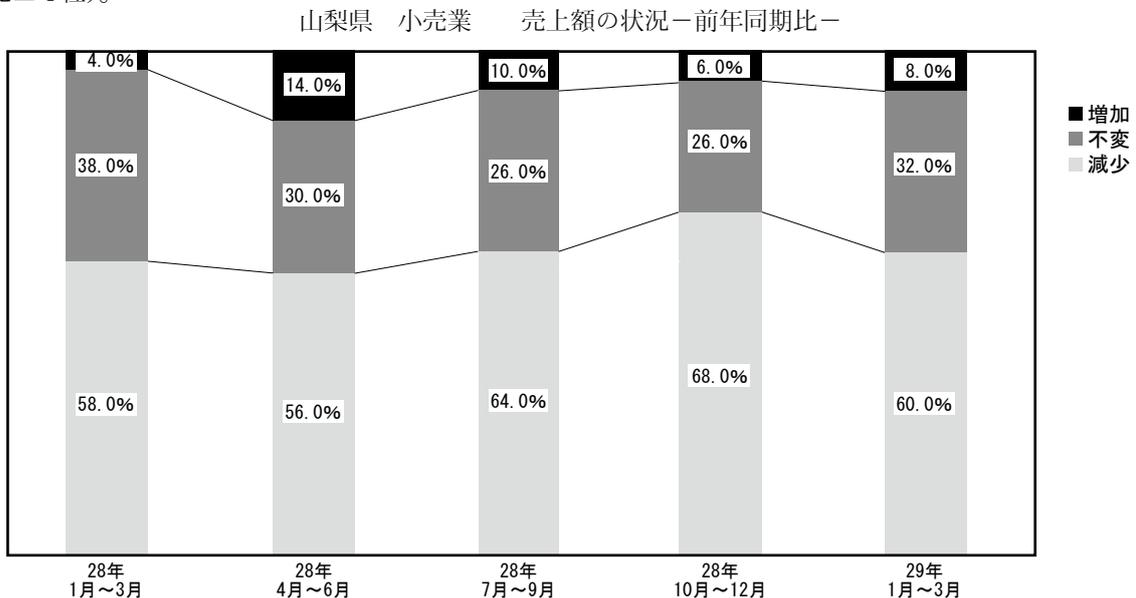


(2) 主な項目で見る業況

① 売上額 (売上額D Iの内容 (回答企業数 50社))

「増加」と答えた企業の割合は、8.0% (4社)と増加している (前期比+1社)。

「不変」は32.0% (16社)と増加 (前期比+3社)、「減少」は60.0% (30社)と減少している (前期比▲4社)。

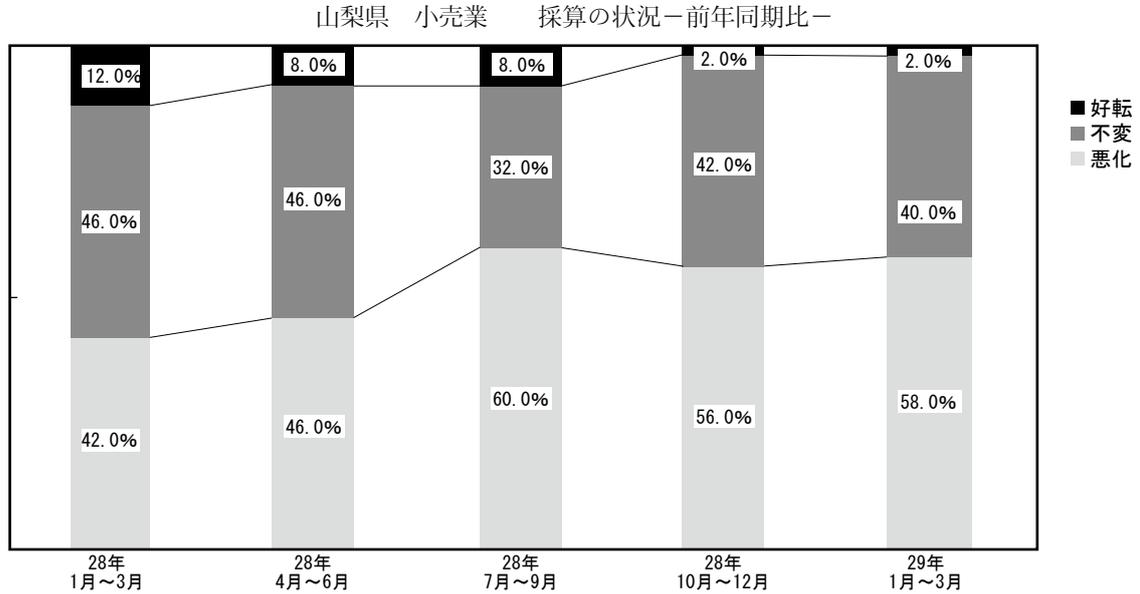


② 採 算（採算D Iの内容（回答企業数 50 社）

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、2.0%（1社）と横ばいとなっている（前期比±0社）。

「不変」は40.0%（20社）と減少し（前期比▲1社）、「悪化」は、58.0%（29社）と増加している（前期比+1社）。



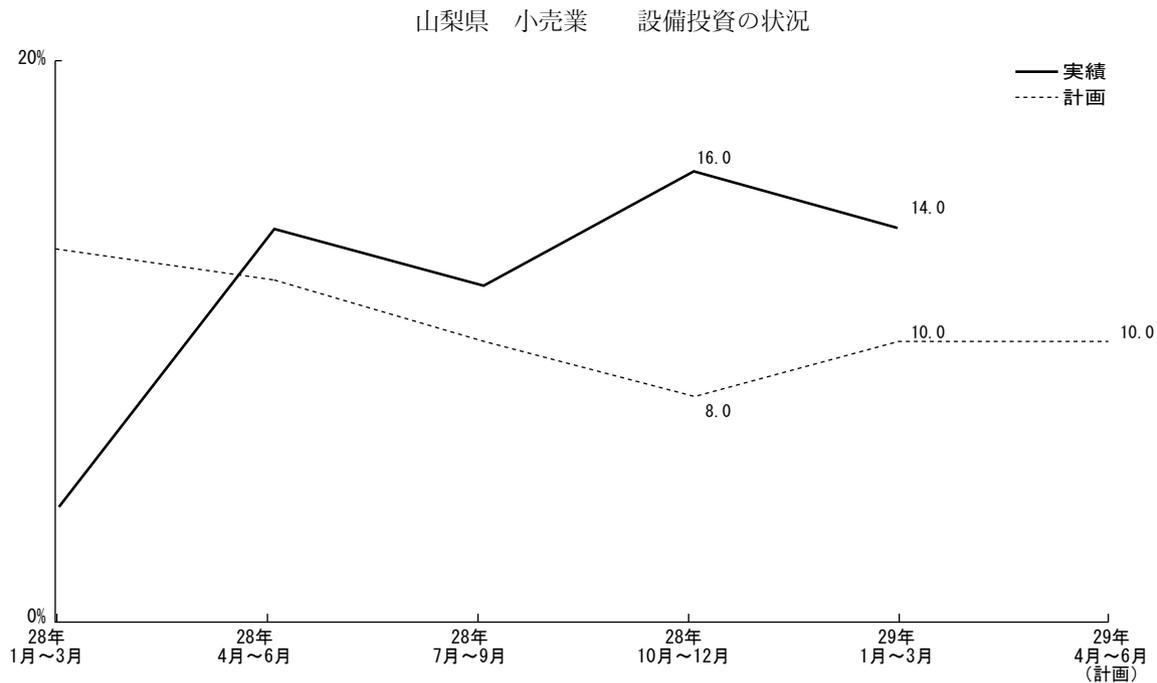
③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数 50 社）

今期において、設備投資を行った企業の割合は14.0%（7社）であった。

その設備投資の内容は、「店舗」、「販売設備」、「車両運搬具」、「OA 機器」が2件ずつ、「付帯施設」、「その他」が1件ずつであった。

来期の計画については、10.0%（5社）の企業が予定している。

その設備投資の内容は、「OA 機器」が2件、「店舗」、「車両運搬具」、「その他」が1件ずつになる。



④ 経営上の問題点（回答企業数 48 社）

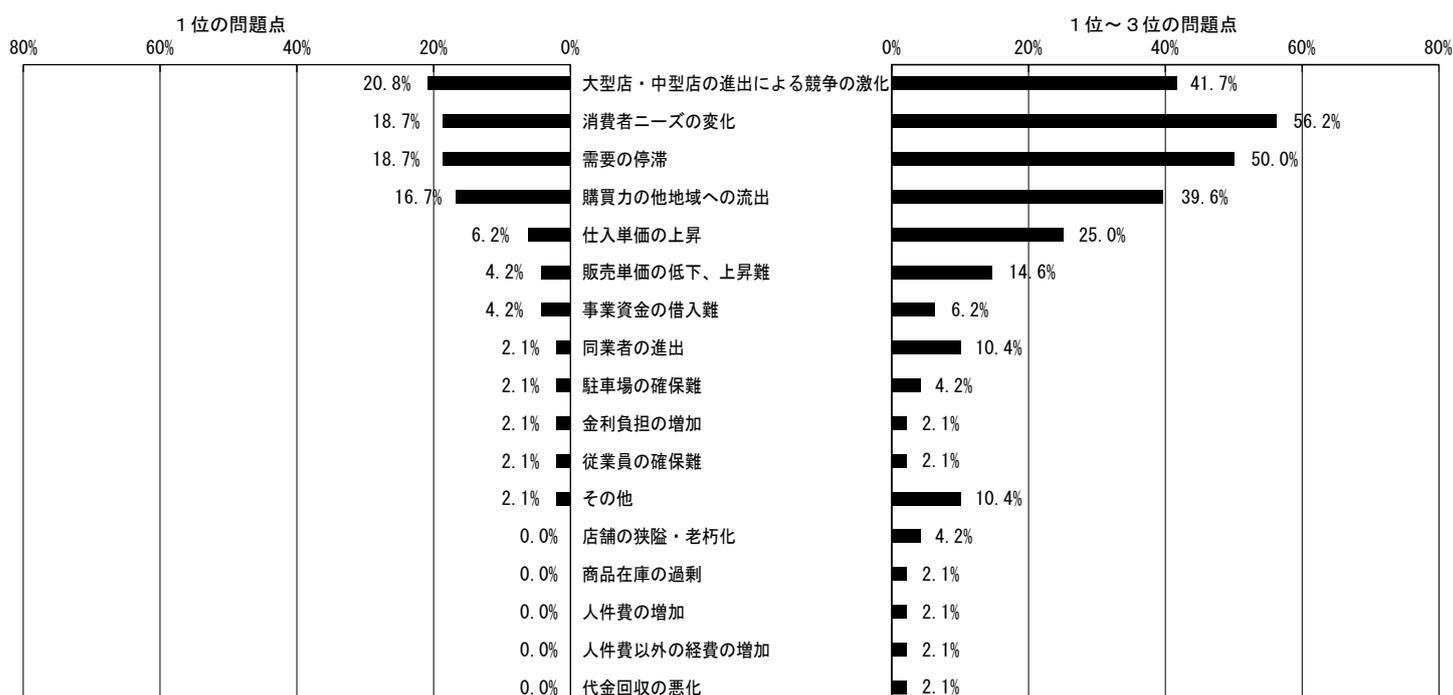
まず、経営上の問題点として、「1 位」に挙げられたものからみていく。

1 番目に多かったのは、「大型店・中型店の進出による競争の激化」の 20.8% (10 社) であり、2 番目に多かったのは、「消費者ニーズの変化」、「需要の停滞」の 18.7% (9 社) である。

次に、「1 位～3 位」に挙げられたものを見る。

1 番目に多かったのは、「消費者ニーズの変化」の 56.2% (27 社) であり、2 番目に多かったのは、「需要の停滞」の 50.0% (24 社) である。

山梨県 小売業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
各種商品小売業	0	0.0
織物・衣服・身の回り品小売業	12	24.0
飲食料品小売業	16	32.0
自動車・自転車小売業	2	4.0
家具・建具・じゅう器小売業	4	8.0
その他小売業	16	32.0
合計	50	100.0

従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数	構成比(%)	企業数	構成比(%)
2人以下	46	92.0	40	80.0
3人～5人以下	4	8.0	10	20.0
6人～10人以下	0	0.0	0	0.0
11人～20人以下	0	0.0	0	0.0
合計	50	100.0	50	100.0

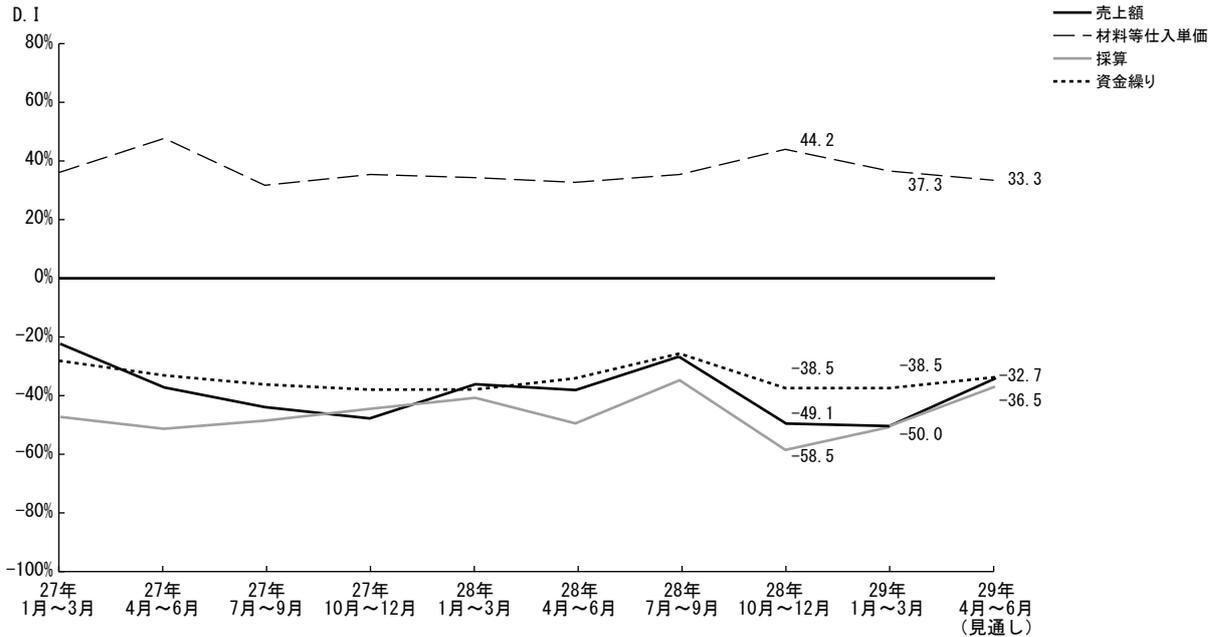
5. サービス業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期は▲50.0と前期比で0.9ポイント悪化している。一方、来期は▲32.7と改善する見通しである。材料仕入単価D Iは、今期は37.3と前期比で6.9ポイント低下(改善)している。来期は33.3と更に低下(改善)する見通しである。採算D Iは、今期は▲50.0と前期比で8.5ポイント改善している。来期は▲36.5と更に改善する見通しである。資金繰りD Iは、今期は▲38.5と前期比で横ばい(±0ポイント)となっている。来期は▲32.7と改善する見通しである。

今期は、売上額D Iが悪化しているものの、来期は、全てのD Iが改善する見通しである。

山梨県 サービス業 主要景況項目の推移-前年同期比-



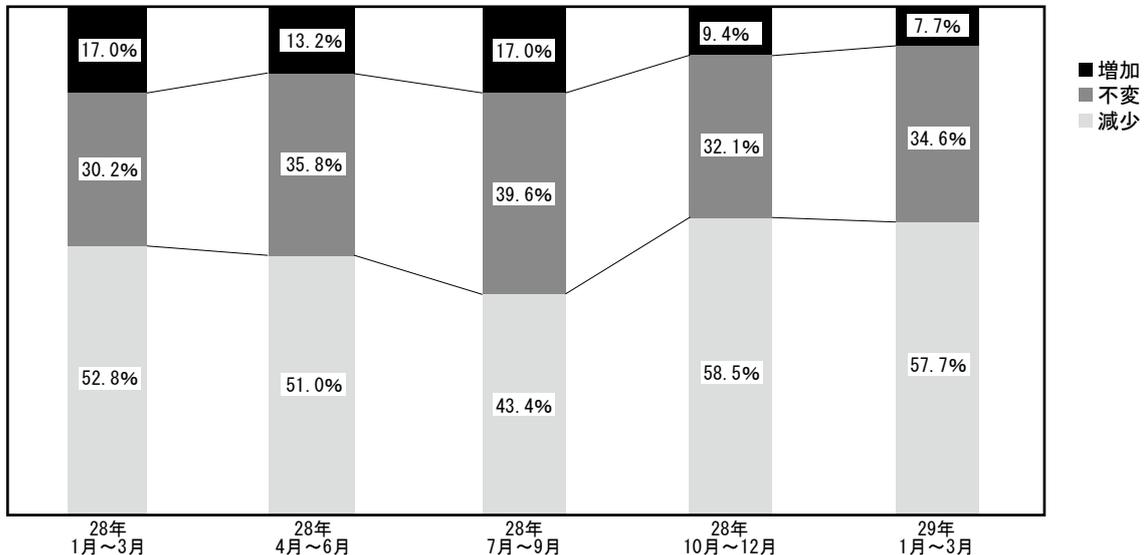
(2) 主な項目で見る業況

① 売上額 (売上額D Iの内容 (回答企業数 52社 (前期 53社)))

「増加」と答えた企業の割合は、7.7% (4社)と減少している (前期比▲1社)。

「不変」は34.6% (18社)と増加 (前期比+1社)、「減少」は57.7% (30社)と減少している (前期比▲1社)。

山梨県 サービス業 売上額の状況-前年同期比-

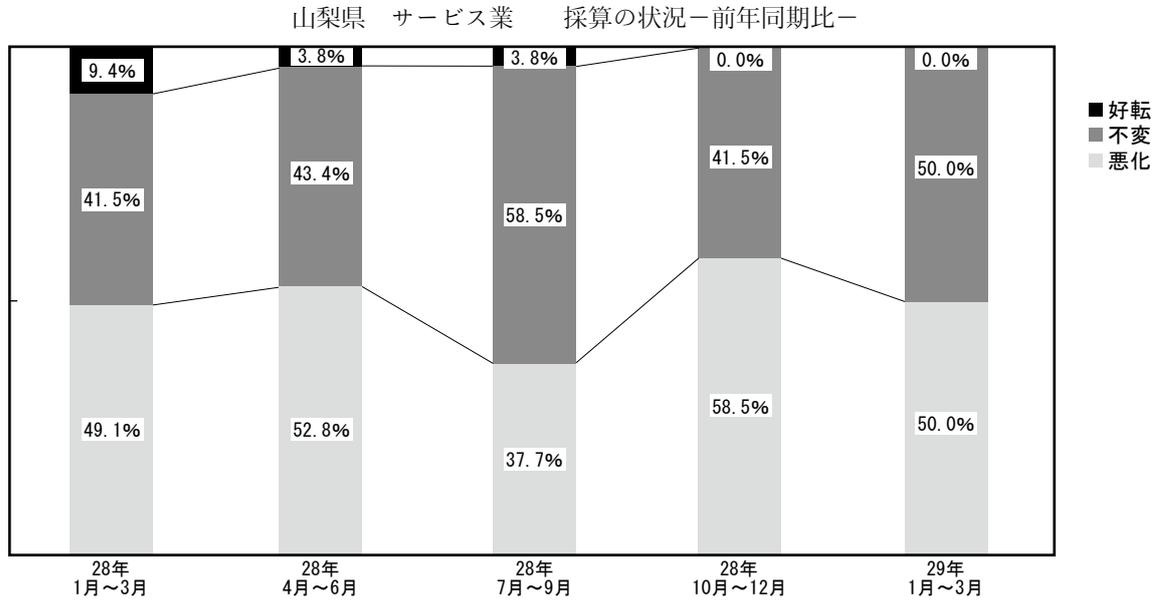


② 採 算（採算D Iの内容（回答企業数 52 社（前期 53 社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、0.0%（0 社）と横ばいとなっている（前期比± 0 社）。

「不変」は 50.0%（26 社）と増加し（前期比+ 4 社）、「悪化」は 50.0%（26 社）と減少している（前期比▲ 5 社）。

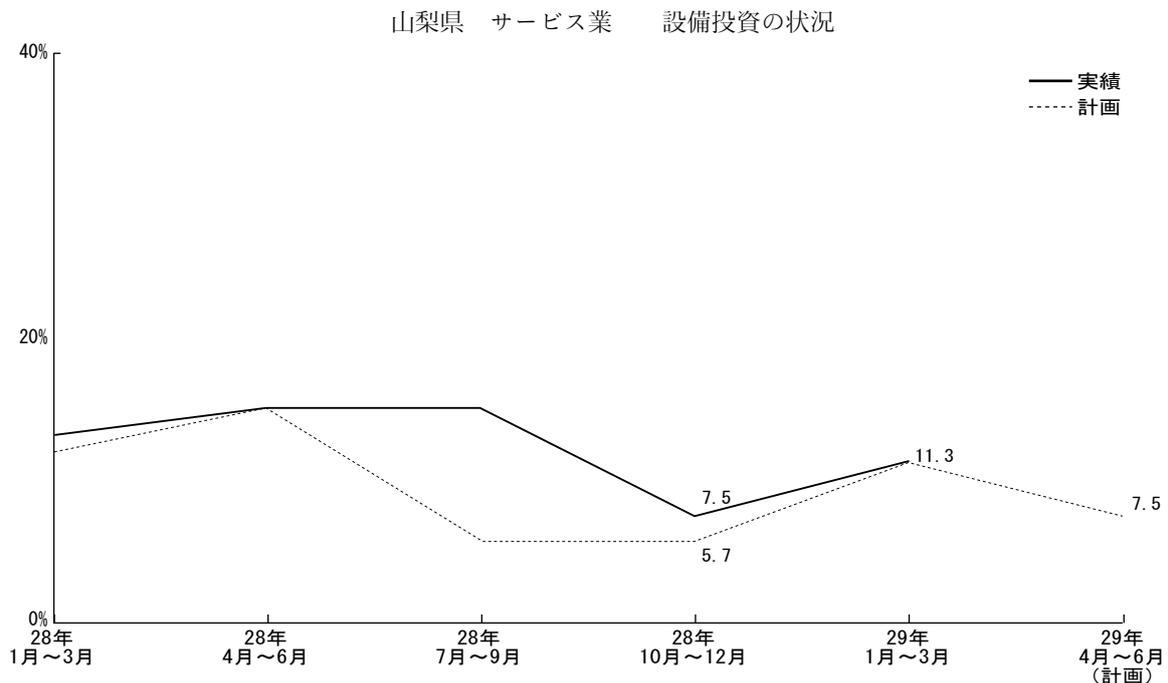


③ 設備投資（直近 1 年間における設備投資の状況（回答企業数 53 社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は 11.3%（6 社）であった。

その設備投資の内容は、「その他」が 3 件、「サービス」、「OA 機器」が 2 件ずつ、「付帯施設」が 1 件であった。来期の計画については、7.5%（4 社）の企業が予定している。

その設備投資の内容は、「付帯設備」が 2 件、「車両運搬具」、「OA 機器」、「その他」が 1 件ずつになる。



④ 経営上の問題点（回答企業数 49 社）

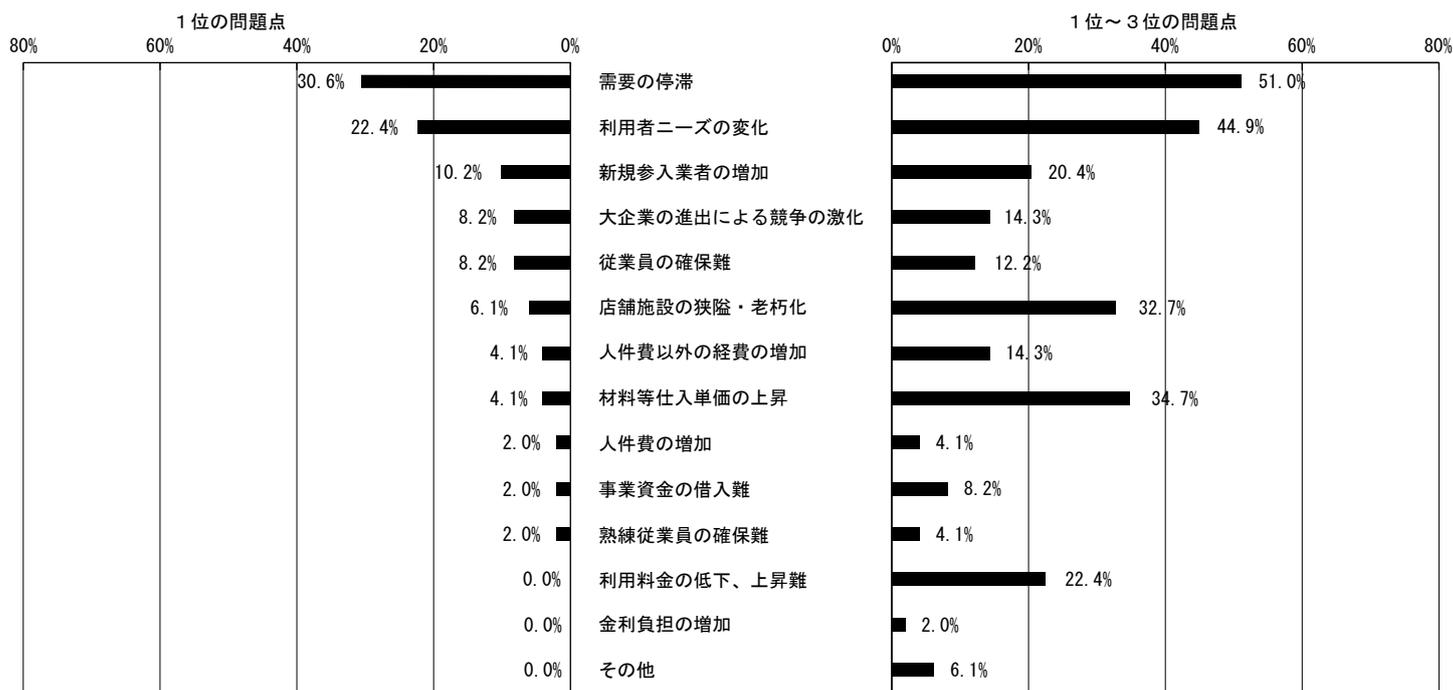
まず、経営上の問題点として、「1 位」に挙げられたものからみていく。

1 番目に多かったのは、「需要の停滞」の30.6%（15社）であり、2番目に多かったのは、「利用者ニーズの変化」の22.4%（11社）である。

次に、「1 位～3位」に挙げられたものをみる。

1 番目に多かったのは、「需要の停滞」の51.0%（25社）であり、2番目に多かったのは、「利用者ニーズの変化」の44.9%（22社）である。

山梨県 サービス業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
一般飲食店（一般・遊興）	20	37.7
宿泊業	8	15.1
運送業	2	3.8
自動車整備業	3	5.7
洗濯・理美容業	17	32.1
その他のサービス業	3	5.7
合計	53	100.0

従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇	い	企業数	構成比(%)
2 人以下	45	84.9	40	75.5
3 人～5 人以下	8	15.1	13	24.5
6 人～10 人以下	0	0.0	0	0.0
11 人～20 人以下	0	0.0	0	0.0
合計	53	100.0	53	100.0